

教育方法研究会（主に「読む研」）についてのごく主観的な活動報告

井上真／林真也

教育方法研究会について

受験に限定されない〈知〉の現場を提供することを目的に設立された「河合文化教育研究所」(文教研)において、2006年に発足(「文教研」は、2023年「河合塾教育研究開発部テーマ別研究会」に改組)。学習モチベーション向上のための生徒向けイベント「将来の職業紹介」の開催、大学初年次教育研究などを中心に活動する。2020年に「読む」とは何かについて問う「読む研」を研究会内に立ち上げ、以降「読む研」、大学初年次教育研究、学習における振り返りについての研究を並行して行っている。また、外部講師を招いたワークショップ等の他、これまでの研究成果を広く告知すべく公開研究会を定期的に開催している。

「読む研」の活動履歴

①大谷能生『散文世界の散漫な散策 二〇世紀の批評を読む』
(ブレインズ叢書 メディア総合研究所 2008年)

②竹倉史人『土偶を読む』
(晶文社 2021年)

「これがあれだ」理論

③蓮實重彦『物語批判序説』
(講談社文芸文庫 2018年/中央公論社 1985年)

蓮實的「問題」、ストック情報とフロー情報

④野口裕二『ナラティブと共同性 自助グループ・当事者研究・オープンダイアログ』
(青土社 2018年)

⑤藤山直樹『集中講義・精神分析(上)(下)』
(岩崎学術出版社 2008年)

⑥ブルース・フィンク『ラカン派精神分析入門——理論と技法』
(中西之信ほか訳 誠信書房 2008年 原著 1997年)

シニフィアンの抑圧

⑦望月昭秀(縄文 ZINE)編『土偶を読むを読む』
(文学通信 2023年)

現代文=土偶

河合塾講師 「教育方法研究会」 2023 年度研究発表

I 教育方法研究会 活動報告

河合塾講師「教育方法研究会」 2025 年度 公開研究会
「学習者の主体化はいかに可能か」(2026/3/1)

II 1「初年次教育における『ふりかえり』のあり方」についての問題提起 2 質疑応答

III 1「読む」についての研究発表 2 ゲストコメンテーターによるコメント

3 質疑応答および来場者を交えたディスカッション

ゲストコメンテーター

●小林 芳樹

(精神科医、精神分析家、小林心療内科・精神分析室院長、日本ラカン協会理事長)

●大岡 淳

(劇作家、批評家、武久出版相談役、河合塾コスモ講師、

SPAC-静岡県舞台芸術センター文芸部スタッフ)

日時：2024年3月3日(日) 15:00~18:00(予定)

場所：河合塾千種校 本館1階140教室

⑧きたやまおさむ『「むなしさ」の味わい方』

(岩波新書 2024 年)

受験生における精神病／倒錯／神経症

「読む研」コメント(2024年3月3日)

小室弘毅氏(関西大学人間健康学部人間健康学科教授)をレビュアーに迎え、上記2023年度研究発表のふりかえりをおこなった

場所：河合塾千種校

⑨亀田真澄「苦しみのトリアージ」

(小鳥遊書房 2024 年 武田悠一・武田美保子編『情動の力』所収)

⑩亀田真澄『マス・エンパシーの文化史』

(東京大学出版会 2023 年)

河合塾講師 教育方法研究会 2024年度公開研究会

討議：読むことの同化と異化—共感とその外側について

ゲスト報告者 亀田真澄

〈略歴〉東京大学文学部卒。東京大学人文社会系研究科修士課程および博士課程修了。マサチューセッツ工科大学客員研究員、早稲田大学研究員を経て、現在、中京大学国際学部講師(※2025年3月16日時点。現在は名古屋大学高等研究院准教授)。専門は現代文芸論、表象文化論、感情学。単著に、『国家建設のイコノグラフィ—ソ連とユーゴの五カ年計画プロパガンダ』(成文社、2014年)、『マス・エンパシーの文化史—アメリカとソ連がつくった共感の時代』(東京大学出版会、2023年)がある。

【日時】

2025年3月16日(日) 14:00~18:00(予定)

【内容】

①「読む」についての研究報告(教育方法研究会)

河合塾講師「教育方法研究会」 2025 年度 公開研究会
「学習者の主体化はいかに可能か」(2026/3/1)

② 報告「苦しみのトリアージ—犠牲者への同一化という問題をめぐって」(亀田真澄)

③ 全体でのディスカッション

【場所】

河合塾千種校 本館 3 階 360 教室

翻訳→意味の産出=読む?

読む=他者の言葉を自分の声で聴く→「読む」の持つ同化作用と異化作用

⑪M.J.アドラー C.V.ドーレン『本を読む本』

(外山滋比古 槇未知子訳 講談社学術文庫 1997 年/日本ブリタニカ株式会社 1978 年)

私的な読書(消費に留まる)と公的な読書(議論につながる)/考察と批評

⑫伊藤雄馬『ムラブリ 文字も暦も持たない狩猟採集民族から言語学者が教わったこと』

(集英社インターナショナル 2023 年)

2025 年度 河合塾講師「教育方法研究会」夏期特別定例会

テーマ：言葉と身体

日時：2025 年 8 月 10 日(日) 10:45~17:45(予定)

場所：東海中学校・高等学校 体育館 1 階・卓球場

講師

伊藤雄馬

(言語学者・横浜市立大学客員研究員)

ムラブリ語研究。著書に『ムラブリ』(集英社インターナショナル)がある。

小室弘毅

(関西大学人間健康学部人間健康学科准教授)

マインドフルネス、ヨガの実践および、荒川修作、ソマティック心理学の研究など。共編著書に『ワークで学ぶ教育の方法と技術』(ナカニシヤ出版)、共著書に『22 世紀の荒川修作+マドリン・ギンズ』

(フィルムアート社)

～スケジュール～

10:45 挨拶・趣旨説明

11:00 ワークショップ①(小室弘毅)

13:00 お昼休憩

14:00 ワークショップ②(伊藤雄馬)

16:00 休憩

16:15 ディスカッション

17:45 終了予定

言語の超越性——「型」そして「文字」

⑬パウロ・フレイレ『被抑圧者の教育学 50 周年記念版』

(三砂ちづる訳 亜紀書房 2018 年 原著 1968 年)